

平成14年10月、東京講道館で開催された全
日本柔道「^{かた}形」競技大会「^{なげ}投の^{かた}形」で優勝

～道場に漂う静寂。聞こえるのは2人のすり足の音。
張り詰めた空気の流れが変わった瞬間、体が宙を舞う。

技が決まった！～



優勝したときの演技を、ペア
で投げ役の岡崎工業高校教諭、
近藤^{かつゆき}克幸さんとともに披露して
くれた、受け身役の大河内哲志
さん。「いつのまにか兄の古着を
着て柔道を始めていました」と
語る表情は演技の時とは違い、
優しい笑顔に変わっていました。

「形」は柔道の基本で、投げ
や受け身の美しさを競うもの。

大会の時は、田村亮子選手の指導をするような選手で
さえ、頭が真っ白になるほど緊張するそうです。

「自信を持って臨んだのに、結果は2位。とても悔
しかった」と振り返る平成13年のこの大会。帰途の新
幹線車内で「燃え尽きた」ともらしていた近藤さんを
なんとか説得。2人は再び練習に練習を重ねて再挑戦
し、今回は見事、優勝という栄冠を勝ち取りました。

現在、自宅で接骨院を経営。「身を守るのが受け身。
でも、その形を美しく見せようとなると、けがとの戦
いになります。だから、自宅に治療機があって本当に
良かった」と笑って話してくれました。



おおこうち てっし
大河内哲志さん（赤松町）



「二人の子とも柔道をやっています。でも、元気で明
るく育ってくれば、それでいいと思っています」

野草歳時記

142



チチコグサ

【父子草 キク科】



ハハコグサに似た草で、写
真のように若い時はまだよい
のですが、少したつと茎がひ
よろひよろと伸びて全体がう
す汚れ、栄養失調の男がボロ
をまとったようなあわれな姿
になります。この名がつけら

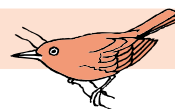
れたところはよほど女性が強かったものと思われます。

ハハコグサは、花が黄色で、人里近くでもよく見
かけられるのに比べ、チチコグサは地味な褐色で、さほ
ど多くは生え^とません。

写真・文／三井亨氏＜城ヶ入町・安城市文化財保護委員＞

安城の野鳥

165



薄暗い水辺を好み、忍者のようにすばしっこく動き
隠れるので、なかなか見ることができません。それに
加え、近年、生息する環境が著しく激変しているため
に、目撃することをより難しくしています。20年前は、
半場川で毎冬見ることができましたが、最近では、矢
作川河川敷で目撃されたのが唯一の記録です。人間に
は何の価値もない草地や葦原でも、多くの生物がひっ

そりと暮らしているというこ
とを忘れないでほしいです。

写真・文／杉山時雄氏＜桜井
町・西三河野鳥の会会員＞



クイナ

—クイナ科—